

研修会報告

10月22日(木) 9:30~12:00

①子育て支援における自治体の役割

13:30~16:30

②高齢者・障害者福祉のあり方と今後の展開

23日(金) 10:00~16:00

③地方議員のためのシティプロモーション

(地域資源の発掘・魅力発信)の要点と進め方

①子育て支援における自治体の役割

東京有明医療大学 千葉喜久也先生

東北出身の方なので語りかけ言葉がお国のなまりを出しながら軽快に実践してこられた中でのお話だったので、机の上、頭の中でのお話と違ってうなずけるお話でした。

子育て支援のねらいと意味

これまで、若い人たちの子育ての声が多くの人たちによって消されていた。

少子化対策は効果ありましたか? ……見えてきません。子育て支援はありますが。

変わる子育て環境

母親大変になった家事労働は電化製品の進歩で楽になったが、子どもに手がかかるようになっている。

男性も仕事が大変・責任と評価が押し付けられる職場環境も厳しい中で子育ての補佐ができない。

覚悟があって出産をしているのかが疑問の望まない妊娠の増加が目立つ。

どんなふうに育てたらいいのかわかっていない子育て。その結果、学力中心の育てをしている。

今の子どもも親も、まわりから「よしよし」と育てられて大きくなっているのに、大人になっていない・子どものまま成長しているために自分中心で、出産しても赤ちゃんにみんなの感心が向くと、赤ちゃんに嫉妬し憎悪まで持つようになる傾向がある。

「大人になるということとは、周りとうまくやっていくために、自分を小さくして、社会性を持ち、親となることである」

……本当にそうだと、60歳を過ぎて理解しています。

子育てをもう一度しなくてははいけません。

江戸時代16歳の子どもは、すでに一人前の大人として育てられていたことに対して、学ばないといけなことが沢山あると思いました。

養育環境の崩壊

好き嫌いがあることは、食べ物だけでなく人や勉強に偏りがでてきて、遊べない・遊ばない・我慢のできない子になっている。

ゲーム機の普及で会話能力にも影響がでている。

待てない・聴けない・話せない・なく・叩く・抱きつく・嘘をつくなどコミュニケーション能力が育っていない子どもが大人になっている。

その結果、人とのおりあいがとれない人が多くなり、うつ病などの病気になっている。

最近の親気質として、何でもうまくいかなかったら、すべて他人のせいに責任の転嫁しようとする人種「他責的人種」が多くなっている。

この人々は、他人を責め立てて切り抜けようとする。

また、話せばわかる「人」が少なくなってきたような気がする。

法令からみた子ども福祉の理念

家族中心の憲法から家族で解決できないことは社会が解決しましょうという日本国憲法。

家族がうまく言っていれば助け合えるけど、そうでないとき他人にかくし、どんどん悪い方に向かっていくことになる。

児童憲章は夢のような言葉です。

「児童は、人として尊ばれる」「児童は、社会の一員として重んぜられる」

「児童は、良い環境の中で育てられる。」

自治体・大人の責任・社会の責任

行政は、児童と保護者と一緒に育成しましょう！！

法律的に当たり前の子育て支援をし、子どもの親が責任を持ってないときは法律的に子どもを育てないといけません。

……強制的に親から子を引き離す勇気を行政は持つべきです。

最近の子育て事情

弱い子どもへの親のストレスのはげ口として、我慢できなくなっている親から、孤立化している親からの虐待の増化。
子どもを守れない家庭、うつ病・依存症・人格障害などの病的な親の存在
離婚家庭の増化などによる子どもの心と生活の不安定さ。
信頼関係のある親・里親・大人の存在がいる。

子どもの人権に対する「侵害」は、児童虐待である。
児童虐待とは、「安心」できない、「自信」が持てない、自分で考えて選ぶ「自由」がないことです。

被虐待児の特徴

自信喪失 ⇒ 自己肯定感が低い
人間不信 ⇒ 安定した人間関係が築けない
情緒不安 ⇒ 感情のコントロールが不安定
自分を責める ⇒ 自分が悪いからと自分を責める

市町村の子育て支援のあり方（子育て支援に理念を）

子育ては、その市町村の未来づくり

子育て支援で地域づくり

親を大人にする

子どもを自立させる

対策より予防を

⇒ 具体的支援方法

親の参加と活動支援

子どもでもできること、子どもを活かす子育てにやさしい街づくり

（誰にとっても住みやすい街）

子育て資源の活用と創出

学校・公的機関の活用

（やり方・方法で楽しくできるように）

行政権限の行使活用

（子どもが一人で行ける歯医者や学校を学校の一角に作る）

児童虐待防止の対応策

◎母子手帳交付時に確認

望んでいる妊娠か

経済的自立はできているのか

妊娠相手は、妊娠を喜んでいるのか

両親に妊娠を知らせているのか

親になることの不安は

子ども時代、親によく遊んでもらいましたか
等々

⇒ 相談相手の確認、虐待の認識、夫の協力、家庭内の気になることなどを聞きながら、妊娠出産に対する不安を取り除いてあげる。生活の様子を聞き、支援をしてあげる。

◎健診時に確認

未受診は、要注意

子どもと親の関係を見る

子育ての密室化の防止

◎子育て支援の案内

◎虐待の背景には、家庭内の経済問題や病気や子育てに不安等様々な問題がある。

◎関係者は、こうした問題に気付いた時に、関係する学校・保育所等・民生児童委員・役所の関係部署に集合をかけて話し合いを。

⇒ 関係者は連携して知恵を出し合う。

相談者は、自分を助けてくれる人がいるなど他人や地域を信頼する。

新たな子育て支援の取り組み

政府による取組

2015年4月から子ども・子育て関連3法新制度の制定

市町村を主体とした子育て支援の運営

⇒ 乳幼児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業、地域子育て支援拠点事業、乳幼児と中・高校生のふれあい事業

虐待を起こしやすい親の特徴を示して児童虐待の予防を図る

子どもの生命を守ることが最優先な課題である以上、例外を設けず、すべての家族を対象とし予防を図る。

たとえば、生後4か月乳児全戸訪問事業を実施する等。

ポピレーションアプローチとハイリスクアプローチ

子育て支援で大切なこと

自信を与える。

理由があって、事情があって、今がある。

生きてきただけでも才能がある。

リスペクトする関係から新たな関係が生まれる。

これからのこと、情報を伝え選択させる。

「ありがとう」「良かった」「またお願いします」を繰り返す。

⇒ 子どもたち、保護者に問題があった。

解決していかなかったから問題が大きくなっている。

親が変われば子どもが変わる。子どもが変われば親が変わる。

…… 昔から言われている言葉です。
そうしてきたつもりですが、皆ができていない事実が積み重なって今なのでしょう。

子育て支援から子育て支援

これまでの子育て支援は、働いている親への支援、専業主婦へはストレスがあり児童虐待防止支援等
これからは、子どもの育ちを支援。子どもの都合で必要なサービスを提供する。子どもに直接的に働きかける支援をする。

子育て支援で地域の未来づくり

子どもは親と社会が育てる時代
子どもは、将来社会の担い手である。
親とは、子どもの育ちを一緒に考える協力者

議員の皆さまに

説教をしないで話を聞いて下さい。
子育て中の親への対応の基本は、叱らない・起こらない・注意しない。
親の話し相手になること。こちらの思いをきょうようしないこと。

…… 難しいです。

虐待する親に否定的な感情を持ちつつも、親を否定しない。

「あきらめて頑張る」勇気と元気と根気を持つ。

…… またまた、難しい。努力していきます。

地域で悲しい事件を起こさせないために。

地域の宝である子どもを守り育てるためにできることをしていきます。

②高齢者・障害者福祉のあり方と今後の展開

東京有明医療大学 千葉喜久也先生

障害をなくすことも、障がい者のいない社会をつくることもできない。
障害があっても普通の生活ができる社会のしくみが必要。

社会福祉の理念の転換

「ウェルフェア (Welfare)」から「ウェルビーイング (Well-being)」
への理念の転換

ウェルビーイングとは、人間の権利や自己実現が保障され、身体的・精神的・社会的に良好な状態で自立・社会参画できるよう、環境の改善と能力の向上に向けた支援である。

障害者を排除するのではなく障害をもっている人も普通に当たり前に生活できる社会の実現。ノーマライゼーションの社会。

ノーマライゼーションとは、障害があっても、その人を平等な人として地域社会が受け入れ、普通の生活をノーマルなものにする。

社会をノーマルなものにする。

ノーマライゼーションの八つの原理

- 1、一日のノーマルなリズム
- 2、一週間のノーマルなリズム
- 3、一年間のノーマルなリズム
- 4、ライフサイクルでのノーマルな経験
- 5、ノーマルな要求の尊重
- 6、異性との生活
- 7、ノーマルな経済水準
- 8、ノーマルな環境水準

ICF (国際生活機能分類) 概念から考える

「障害」の考え方を改めている。否定的な意味を取り入れず「活動 (課題や行為の個人による遂行のことである)」「参加 (生活・人生場面へのかかわり方のことである)」の考え方。

たとえば、車いすを使用することで起きる不都合や課題が問題なのではなく、それを受け入れられない社会に問題がある。

地域での「自立生活」支援

施設や親元を離れ地域で自立 (自律) した生活を送ること。

そのためには、支援者が必要であり、福祉職の方々がその支援者となりうる。

しかし、おうおうにして、障害を持っている方々は、ほったらかしにされている。

意思決定支援（エンパワメント）

潜在的な能力や自己決定する能力の可能性を信じることが大切であり、その能力を引き出す支援

権利擁護（アドボカシー）

本人が自らの意志を表明するよう支援し、その意思の実現を権利として本人に代わって擁護（代弁）する。

高齢者虐待防止法

高齢者虐待を初めて定義

高齢者虐待を早期発見・早期対応を主眼としている

身体拘束の禁止

身体拘束の緊急やむを得ない場合とは、

①切迫性 ; 本人又は他の利用者等の生命又は身体が危険にさらされる可能性がいちじるしく高いこと

②非代替性 ; 身体拘束その他の行動制限を行なう以外に代替する看護・介護方法がないこと

③一時性 ; 身体拘束その他の行動制限が一時的なものであること

徘徊 ; 安心できる環境を与える。

ただ、何かを求めてあるいているだけです。

…… 黙ってついて歩くことも大変です。見守っていることも大変です。介護者に力を貸してください支援者を送って下さい。

寝室や部屋に、昔の写真を拡大をして壁に貼ると良い。

アルバムを見てもらうと落ち着いてもらえる。

…… 各家庭・各施設はこの方法を取り上げるべきです。

スウェーデンの高齢者ケア

1950年代 高齢者の割合が人口の10%に達し、高齢化社会を迎えた。

1959年 病院法の改正をし、長期の療養型施設を開設
疾病のみに着目した治療

1960年代 高齢者ケアの質向上運動が開始

プライバシーに配慮した個室の提供、福祉機器の開発、住宅環境の整備、人里離れた場所から街への施設の移動

↓

高齢者本人の意思が徹底的に尊重された個別ケアの実現

1982年 社会サービス法成立

介護・看護者は、利用者が活動的に自立・独立し、自分で自由な人生を生きることができるよう援助する。

- 1、自己判断・自己決定を尊重する
- 2、普通の生活をする
- 3、残存機能を生かした生活をする
- 4、積極的な社会参加を推進する

日本は社会参加をさせず、補助金を渡すだけである。

日本の医療・福祉現場

違和感や疑問ありませんか？

日本8割が病院でなくなります。外国は半分です。

医療費もかさんでいます。

死ぬ間際まで多量の医療措置が行われています。

在宅支援が手薄です。自宅や非医療機関での看取り率25%です。

最後まで地域で生活するためには

個人の状態や特性に応じた支援を。

75歳以上の生活の質の維持・向上を。

健康管理は自分でしましょう！

高齢者は入院したら1日2%の体力低下を招きます。

個別支援と地域づくり

在宅ケアを受けて生活していく。24時間体制の介護サービス。

介護者支援、近隣による見守り・支え合い体制、成年後見制度や日常生活自立支援事業等の地域の権利擁護システムとの連携

最後に皆さんに

今の自分が幸せ。日常生活に喜びや幸せを見出すことがたいせつです。

自分以外の人間に「期待過剰しない」、頑張ることのできる自分に期待する。会いたい人に会い、行きたいところに行き、食べたいものを食べる努力をして下さい。

体調悪くなったら、困ったら声を出しましょう。無理して我慢しないで！失敗してもいい、迷惑かけてもいいです。安心して失敗し迷惑をかけながらも生きられる環境を作りましょう。

自分を責めない。

自分をはげます。

体力をつける。

人生の目標を持つ。

どんな人生を送るのか？自分の夢は？校が楽しいですか？

夢を語り、夢がかなうように努力することが、生き生きできる秘訣かも…
…。

講義後の質問を受けて

地域の包括ケアシステムは、お年寄りが生き延びるシステムになっていますか？

介護士・看護師のステップアップをさせたいが、できない日本。
介護と看護の一本化を望んでいるが、協会や本人たちは望んでいない現実がある。

人口減少に価値を見出す。

一人のしめる面積が広い、医療の待ち時間が短い、コンサートチケット取りやすい等々生きやすさがあり価値ある街である。

介護報酬をあげて、夢や希望が持てる仕組みにしてください。

国は、介護や医療に責任をとる覚悟はあるのだろうか？

福祉にかかるお金は、地域に落ちて循環している。

③地方議員のためのシティプロモーション

(地域資源の発掘・魅力発信)の要点と進め方

資料配布は困ります。なぜなら、ばくり疑惑があるから。

…… だそうです。へえーと思いましたが、世の中を知らなさすぎますかね。

地域の観光パンフレットがゴミになっていませんか？

無駄なお金が使われていますよ。

認識の確認を試みましょう！ ⇒ 何枚配布して、何人来られているのか。

…… どこに行っても色々いただきますが、最後はゴミになっていますね。

アンテナショップ 売上げ上がって、どれだけ幸せになっていますか？

真剣に考えていますか？

交流人口とは、双方向の活動であります。

行政は外側に視線を向けていますね。

たとえば、B1グランプリ、B級グルメなどありますが、地元はしらけていますよ。

内側に視線を向けて行うことが、活動量が増えます。

「地域活性化の真の目的とは」住民が幸せを感じるまちにすることです。

人口減少を感じているのは行政で、地元住民は感じていないのではありませんか。普段の生活で人口減少を感じますか？

人口を増やしたら、問題が解決するのですか？

「人間」を「人口」と見ているから、人口増加が問題となるのである。

地方創生では、またぞろ、国が口を挟もうとしています。

若年層の流出 ⇒ 止める必要あるのでしょうか？

「かわいい子には旅をさせろ！」

将来、戻ってきて恩返しをしたいと思ってくれたらいいのでは。

観光に従事している人は、人口の何%でしょうか？

地域の特産品をそのまま消費していますか？

生活の中の特産品であるべし！

生産や売り上げ日本一でも、地域の活性化に影響しない現実。

地域住民が地域に愛着を感じ、住み続けたい

ここで学びたい

一度は出て行ったとしても、いつかは戻って来たいと思っている地域

そうした住民がたくさんいる

生き生きとした地域であればこそ、

遊びに行ってみたい

住んでみたいという 他地域の人々も増える

⇒ 何が起きているのか、騒ぎのあるところに行く気になる。

……それが、魅力になればいいのですね。

ご当地愛の強い地域のトップ20

一位 沖縄県

二位 北海道

三位 京都府

旅行に行きたい都道府県トップ15

一位 北海道

二位 京都府

三位 沖縄県

⇒ 重なっていますね。地元の人が住んでいいまちと感じ、地域を高める努力をされている。

たとえば、浦安の「ディズニーランド」に来られても、浦安の方々は、わがまちに来られていると思われていない。

近所にある神社に手を合わせる風景 ⇒ 地域文化 見えない・見えてないのに手を合わせる

88か所をまわられるお遍路さんは文化は知っているがお寺を知っていない

仏像展

⇒ 文化財・美術品

文化の痕跡で人を呼ぼうとしている

岸和田の「だんじり」

⇒ 何の神様か知られていないが、荒れ狂う死者まで出る祭りとして有名である

ご当地品とB級グルメ

ご当地品は、地域に愛され購入されている製品

B級グルメは昔からある物ではない食文化、まちおこしとして作られたもので地元はちっとも嬉しくない

ヒット商品は、売れ続けるものではない。売れない時期がある。

売上高ピークを過ぎたら利益はさがります。

下がる前に新商品を開発して、盛り上げていく努力をしなければならない。

イメージキャンペーンは、地域の共感を得るもので、文化に基づくものを！！

「海軍文化」に着目して「海軍のまち」でカレーを出し、地域のプロモーションにする。次に他の商品も出せばよい。次から次に商品を出していく。

大きな誤解をされていることに、B-1グランプリがB級グルメの日本一を決めているイベントだと思われている事があります。

関係が全然ないです。

…… そうなんですか。

知りませんでした。

B-1 グランプリのBはブランドのB。

誇りを持たれているプライドのあるもの。

かつ、地元の人たちには、安くてうまいと愛されているもの。

「食の文化」 ⇒ 地元で知らない人がいないもの。

地元であたりまえのもの。

マーケティング⇒	Product	製品	何を
	Promotion(プロモーション)	販売促進	売る
	Price (プライス)	価値	いくら
	Place (プレイス)	場所	いつ

売れる確率を高める行為

客と企業の距離を近づければ当たる確率が高くなる

当たる可能性が高いというだけで、必ず当たるということではない

当たらなければ即撤退し、次の手を打てるという体力があって初めて通用するのが、マーケティング

インターナルマーケティング 内側に向けてマーケティングしましょう

神奈川県三浦市のシティプロモーション

5万人のまち 一人一人歩いていない 自販機のないまち

そこに用のない人は来ないまち

⇒ フィルムコミッションで100万の黒字を出している

自分のまち 愛着のあるまちにする ⇒ 外の人に来てくれる

人が集まりゴミ拾いに来てくれる ⇒ 弁当を食べ、泊り、酒を飲んでくれる

…… 仕掛け人がすごいです。講師です。そこまで行くことができた過程が聞きたいです。

限界集落 ローマ法王に米を食べさせた男

神子原の米

⇒ ブランド化

ローマ法王という有名な人が持つと有名になる

ローマ法王に献上された

にぎやかな過疎をつくろう！

⇒ 幸せを感じる

空き家に若い人たちが住んでくれる ⇒ にぎやかになる
元気な集落に

沖縄の「ニライカナイの戦士 マブヤー」

10年間人気下がらない。

お土産屋さんのプロモーションに始まり、沖縄で人気が出てきた。

マジムン（魔物）からマブイストーン（魂の石敢當）を守るという沖縄に伝わるものを題材にしたお話で、スポンサーも沖縄の人たちで、作り上げたもの。

昭和30年代のまち（大分県豊後高田市）

一番元気だったころのまちの再現。

アルミサッシの戸を、補助金を出して、木の戸にした。

風情をのこした。

人口18000人のまちに月2万人が訪れるまちに。

小値賀観光まちづくり公社（おじかアイランドツーリズム）

2800人の島 ルールがある（島の人がしないことはしない）

佐世保から40分の島

2万人弱の観光客 2万人以上は受け入れない

近所の島が世界遺産にしたがっているが、したくないと主張している

世界遺産にしても、だれも行かないものにしてはならない

地元に残せるものがあればいいが…

文化を見えるものにしましょう！ ⇒ 文化可視化

資源

せっかくあるから何かしようではなく、

やりたいことがあるそのために条件がほしい ⇒ 資源を活用する

シティプロモーションに係る施策のチェックポイント

住民の真の共感を呼ぶ施策となっているか

協働を進めるにふさわしい体制が取れているか

お金さえかければできる事業になっていないか

地元のお宝をどう演出し、たのしくするかです。

文化を掘り起こしてください。

お金がないからやらないのですか？

本気でやる気があれば、お金を集めることから始めましょう。

理念で相手を説得し、成果を出す努力をし、お金を出してくださった人たちに理解と共感を持っていただくようにする。

協力者を集める。

本気のない事業はやらなくていいとおもいます。お金のむだ使いです。

- …… まちづくりの考えを聞きましたが、なかなか、できるものではないと、あらためて思いました。
地元の人たちが喜んで下さることをしていきたいと思いました。
共感のしていただける事、本気・やる気の出せる事を協力者と一緒に考えていきたいと思えます。
大事なお金（補助金）を使わせていただきます。